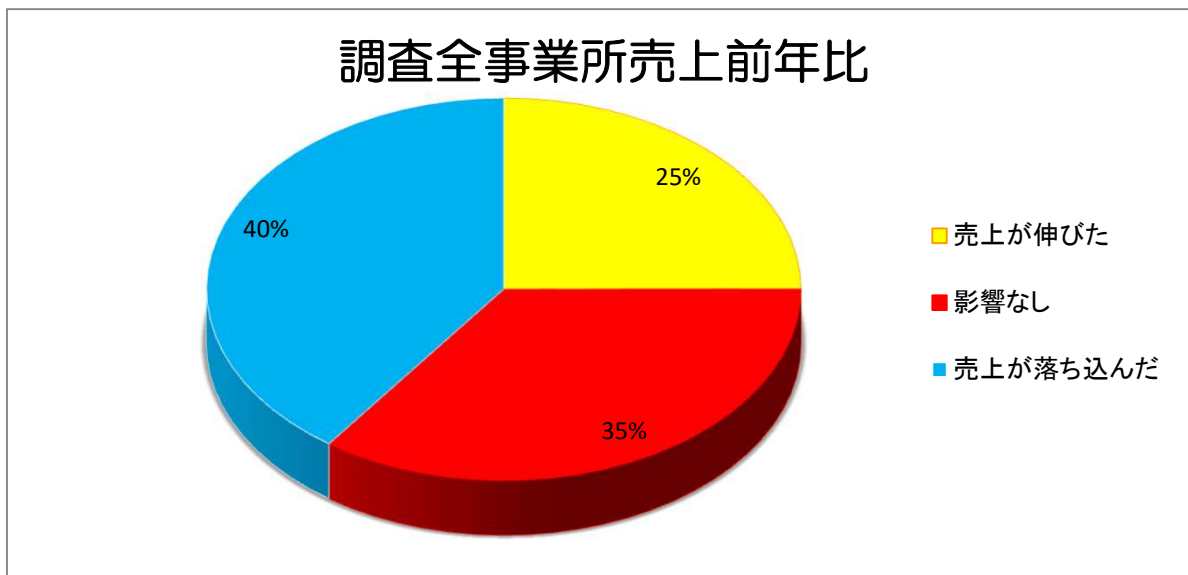
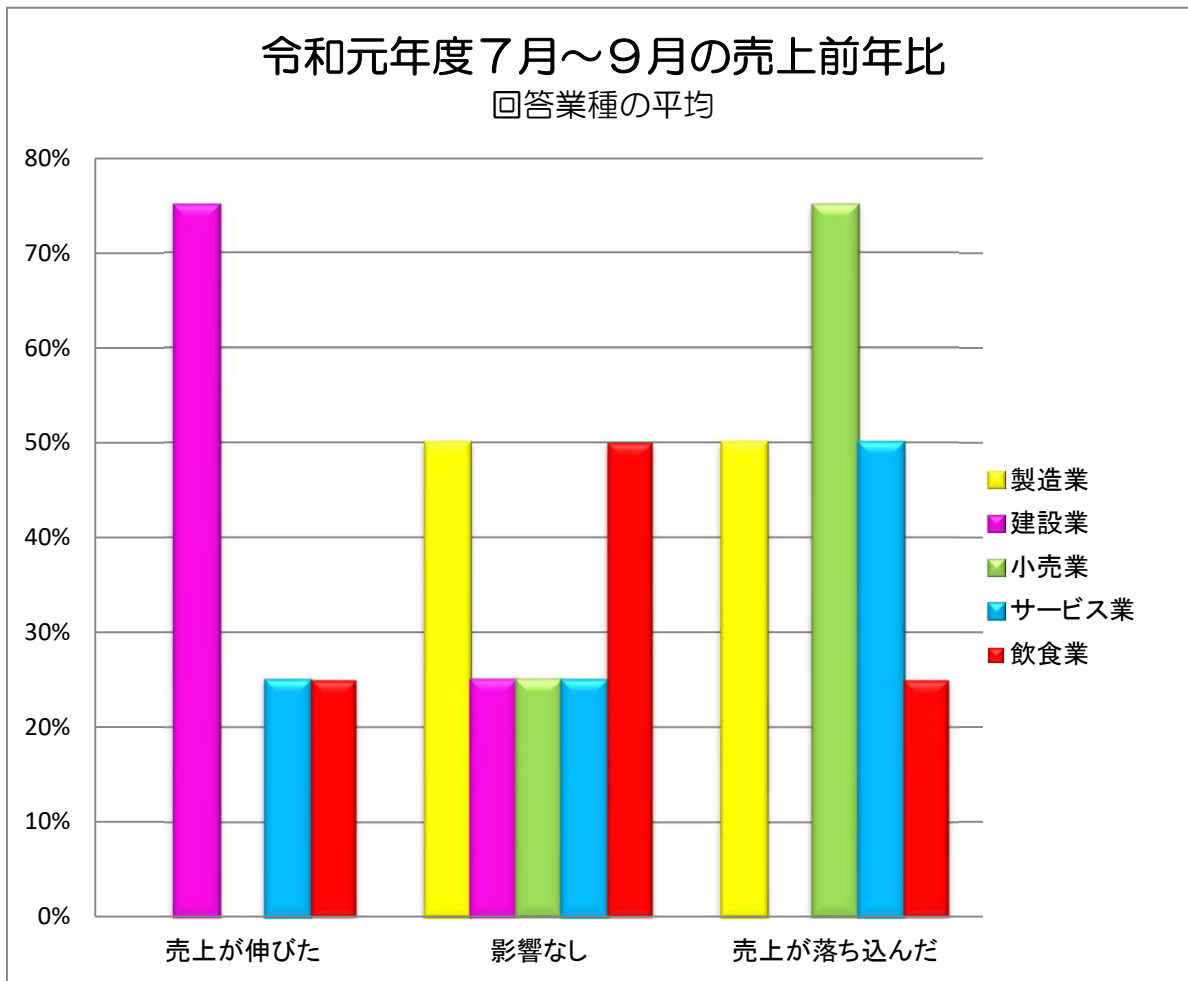


令和元年度
管内小規模企業景気動向調査概要
(令和元年度7月～9月)

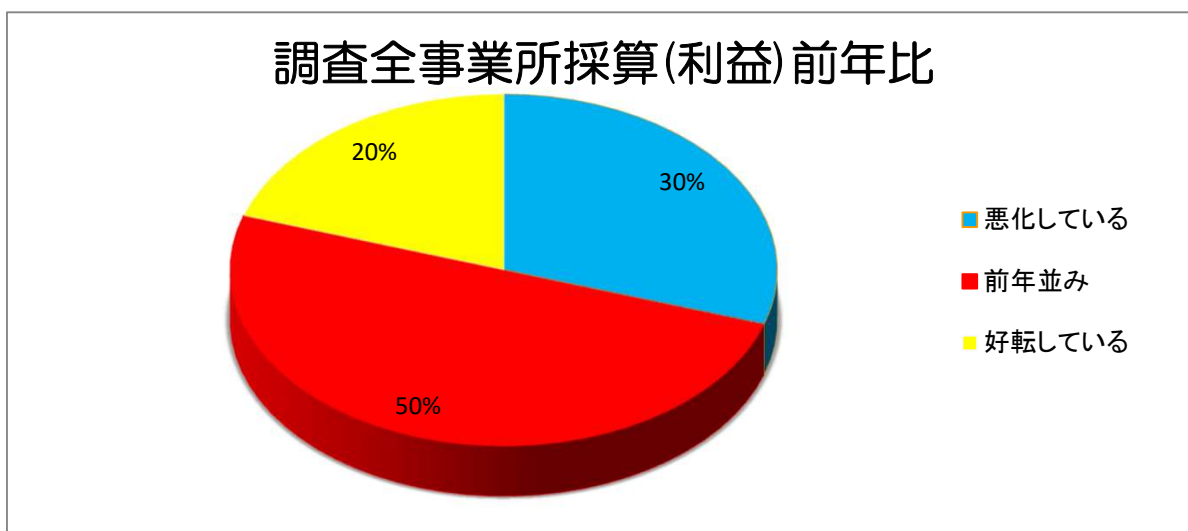
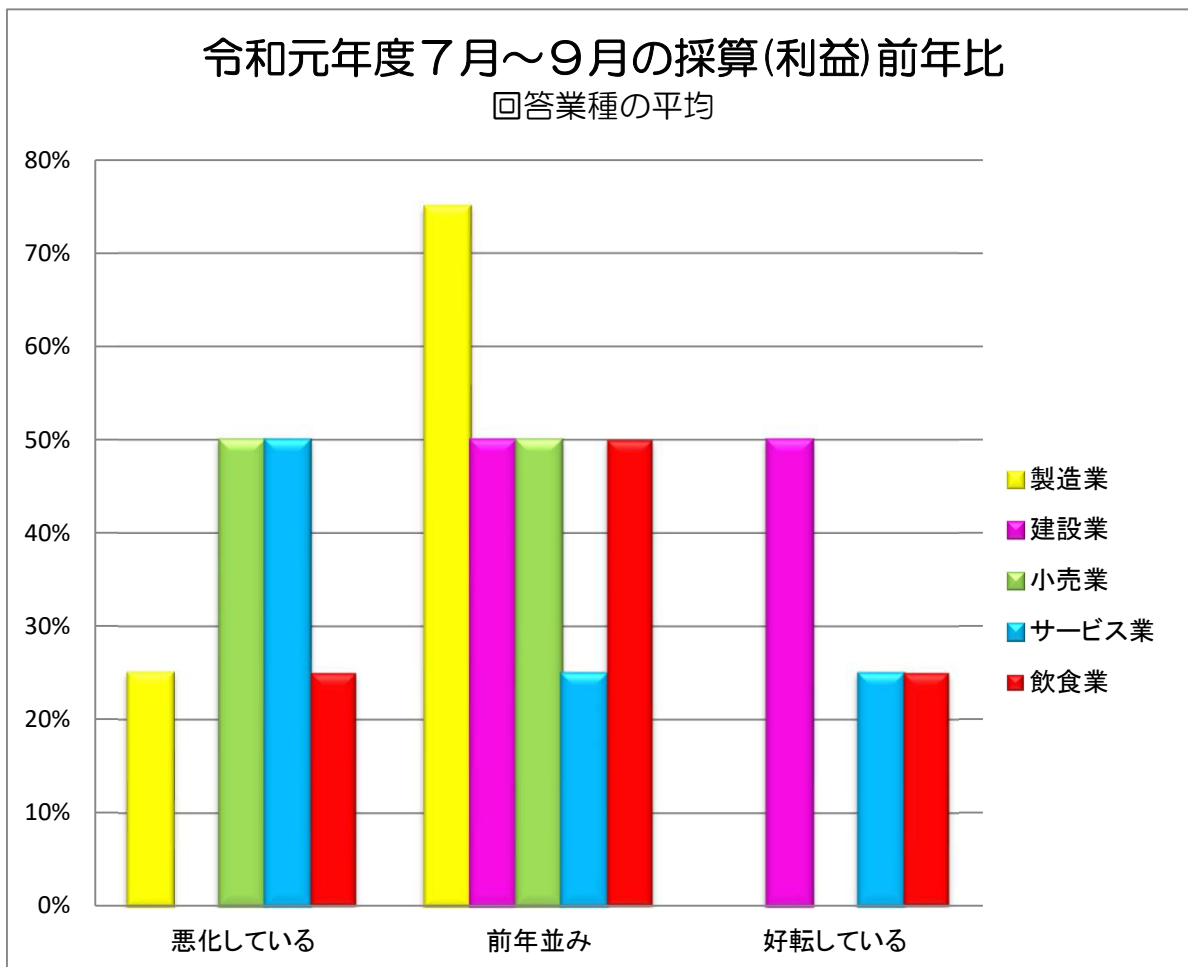
みやぎ仙台商工会

質問 I 売上高は、前年同期に比べてどうですか？



下段のグラフによると、業種を考慮せずに、事業所ごとの対売上前年比を調査したところ、『売上が落ち込んだ』が5～10%多く、『売上が伸びた』、『影響なし』は、ほぼ同じ割合であった。
 更に、上段のグラフで、業種ごとの回答を調査したところ、業種ごとの景況感に相違があることが顕在化した。中でも、建設業では、75%の事業所で『売上が伸びた』と回答したのに対し、小売業では、『売上が落ち込んだ』と回答した事業所がそれぞれ75%に達した。

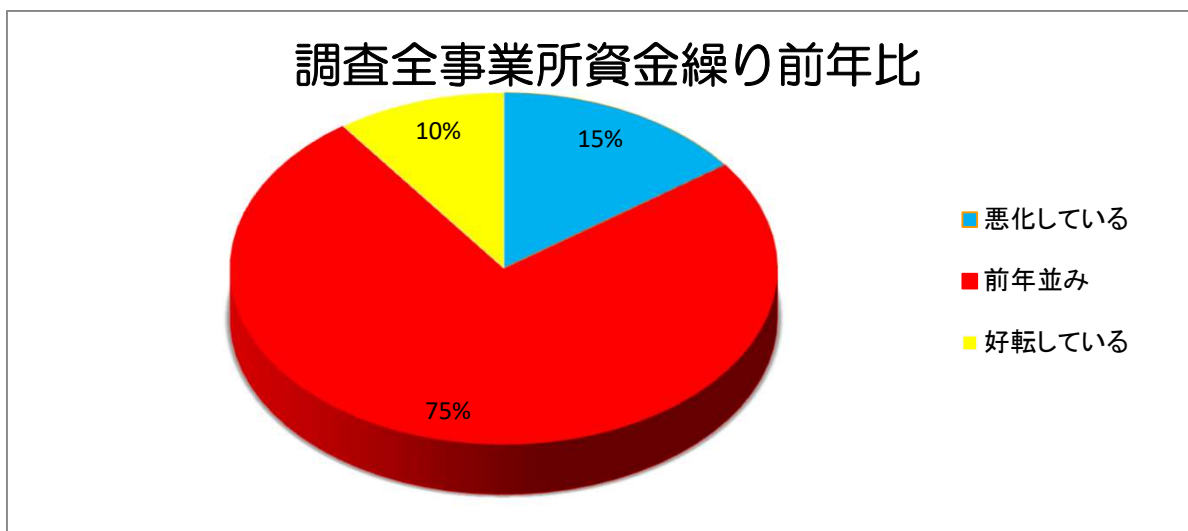
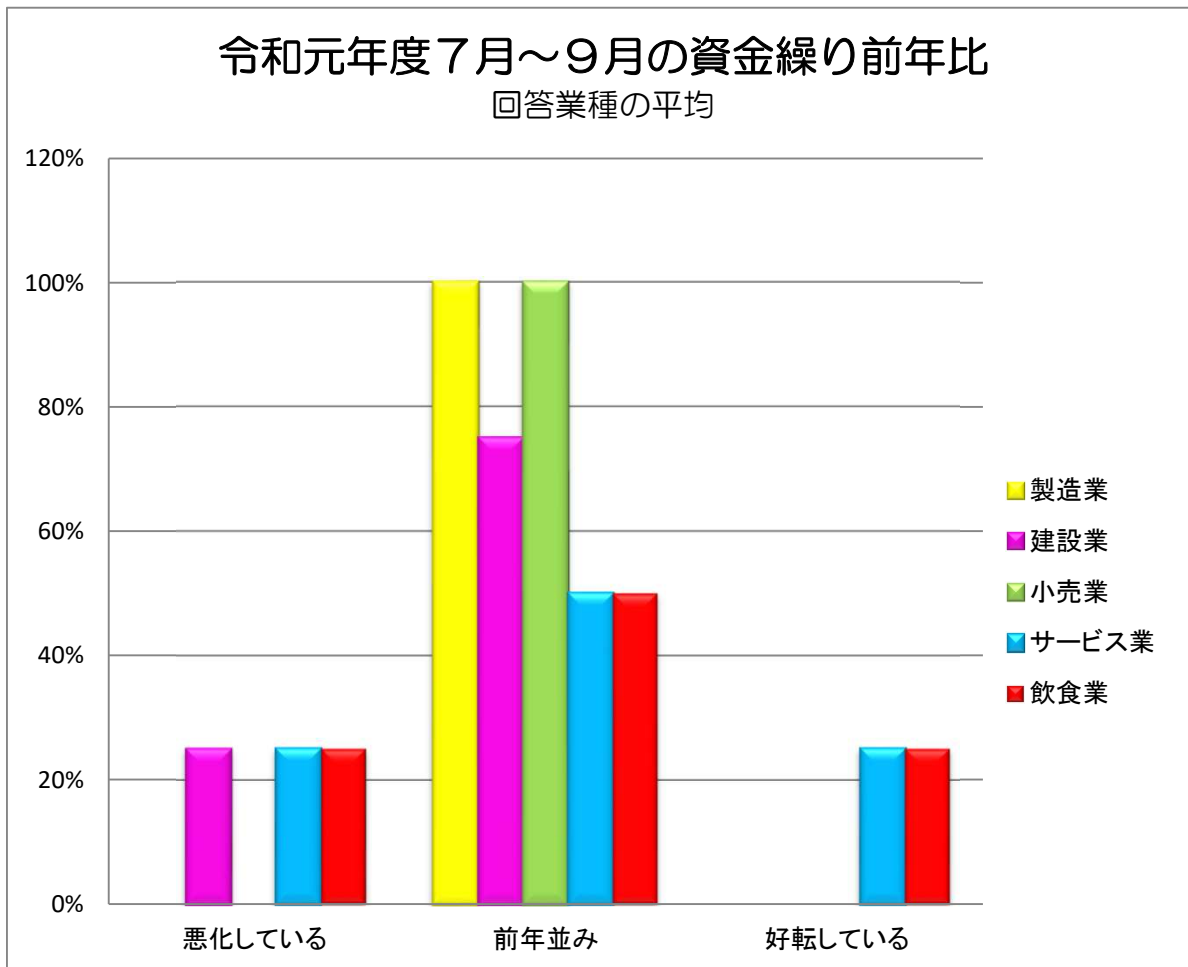
質問Ⅱ 採算(利益)は、前年同期に比べてどうですか？



下段のグラフによると、採算(利益)については、ほぼ半数が前年並みと回答したのに対し、残りの30%が悪化、20%が好転していると回答しており、こちらも不調が上回っていることが伺える結果となった。

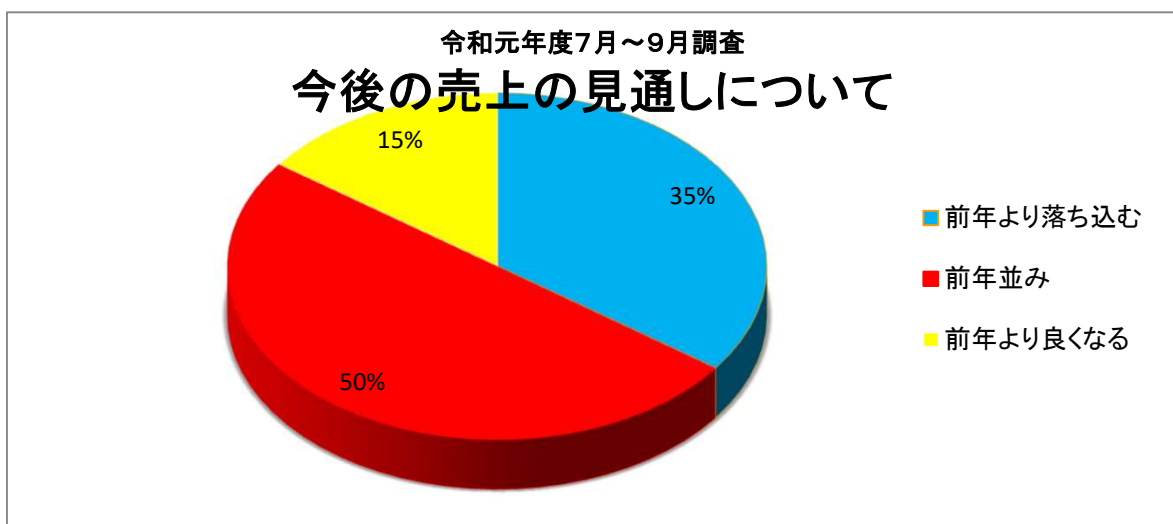
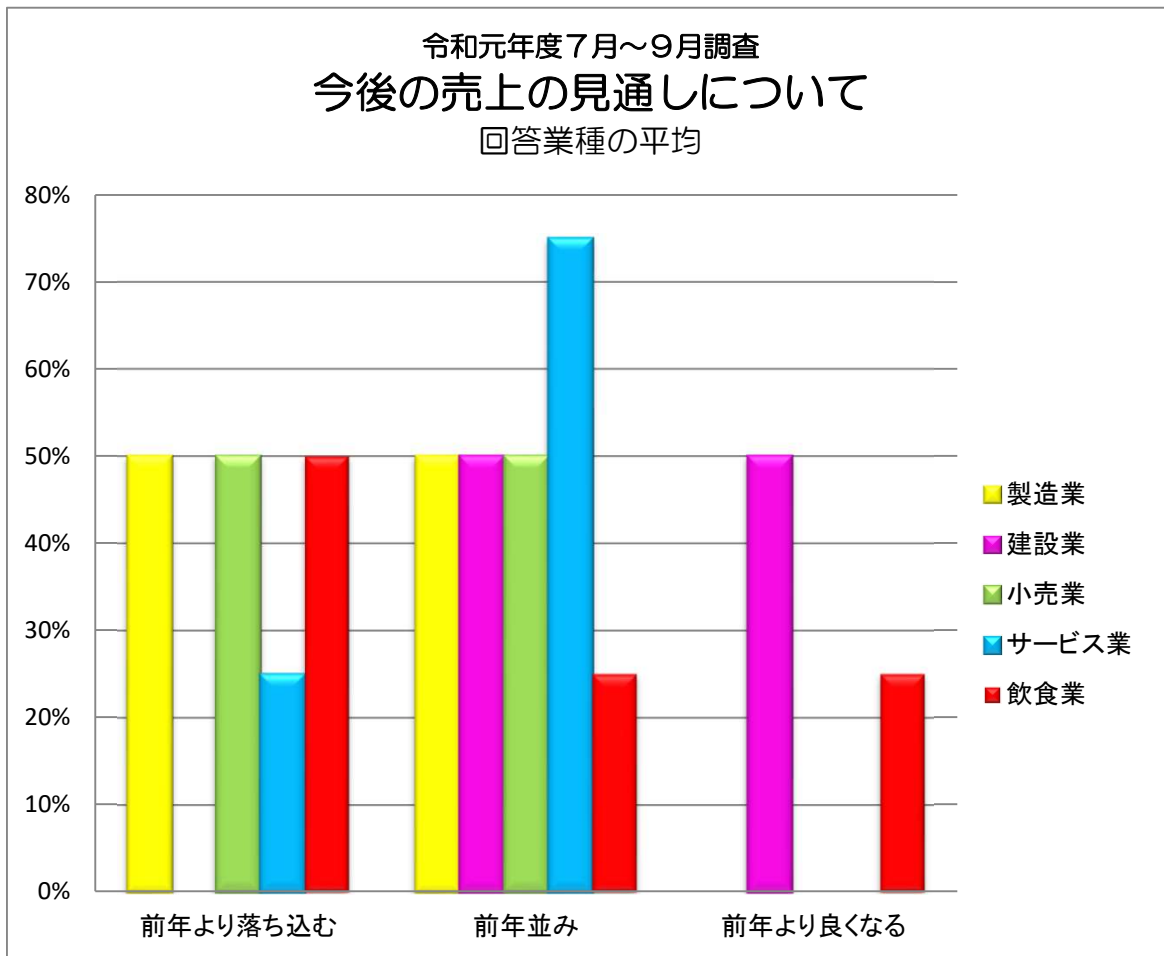
上段のグラフによると、建設業は、前期に引き続き、増収増益傾向。製造業は昨年同様に売上も利益も安定状態。小売業も引き続き減収減益傾向。サービス業・飲食業は事業所ごとにマチマチである。

質問Ⅲ 資金繰りは、前年同期に比べてどうですか？



資金繰りに関しては、75%の事業所が前年並みと回答しているのに対し、悪化しているのがほぼ全業種に亘って15%の回答があり、好転している10%の事業所に対してほぼ均衡していることから、推移を見守っていく必要がある。

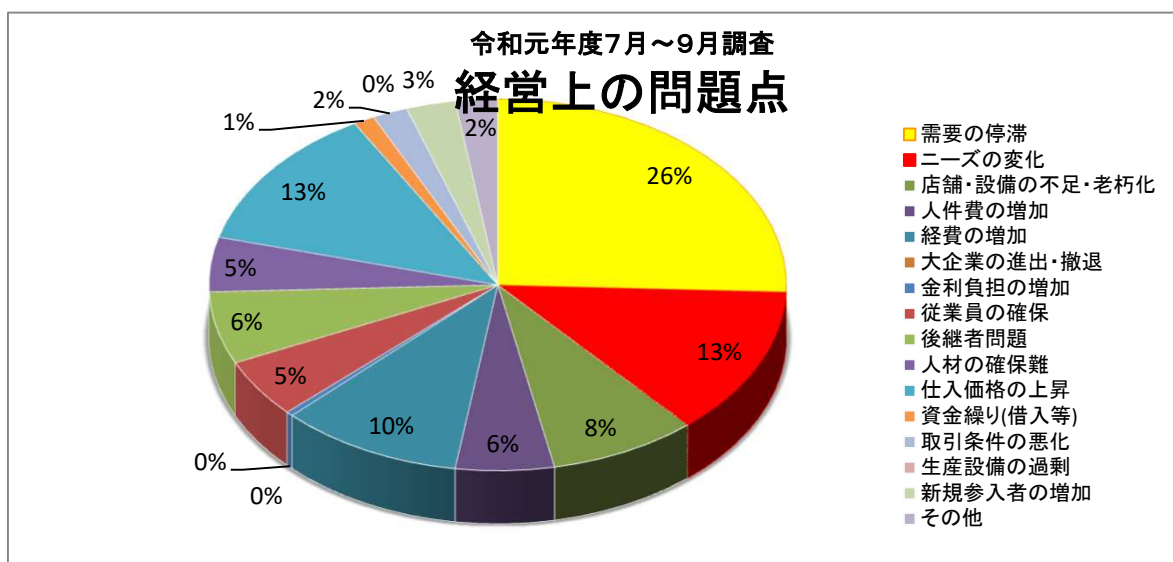
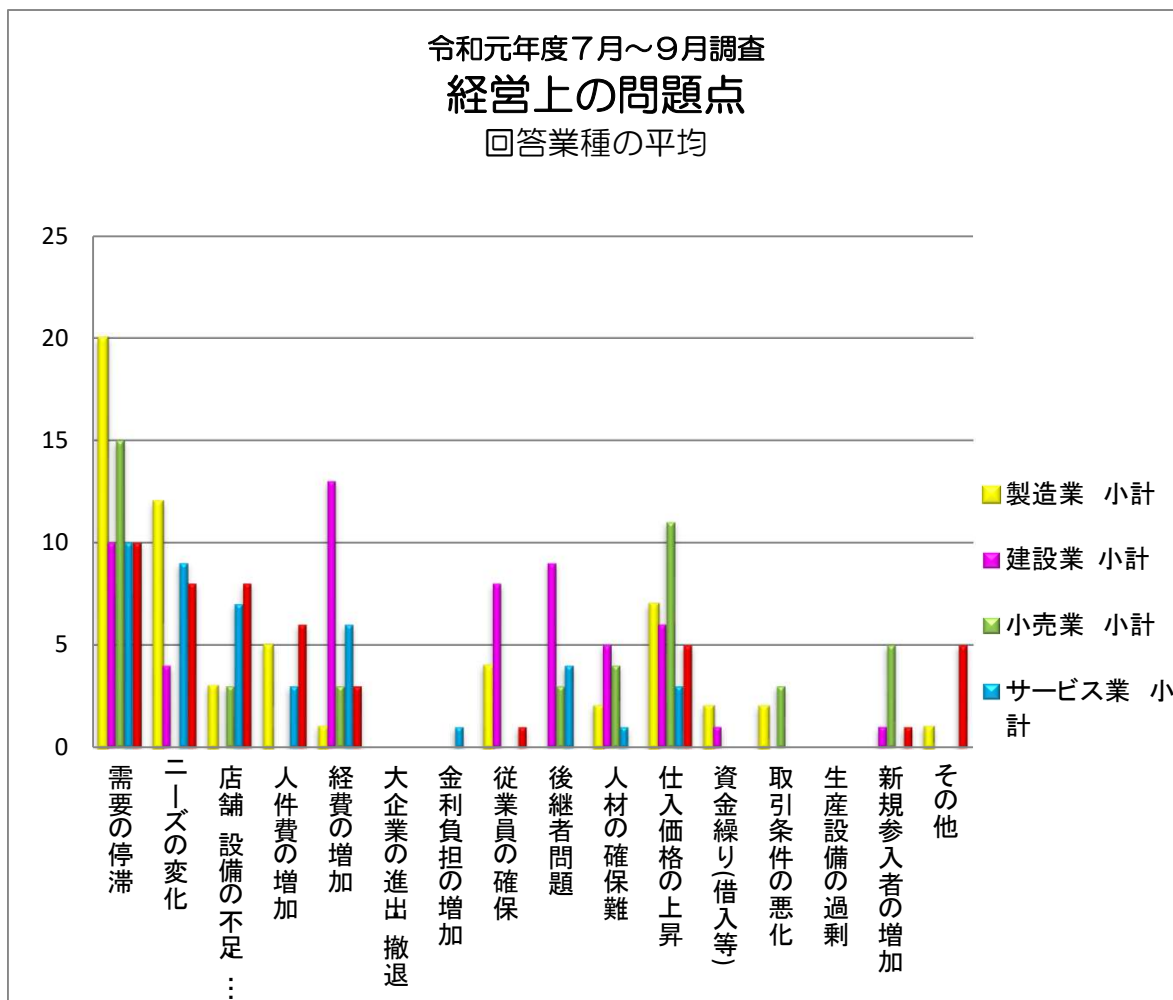
質問Ⅳ 今後の売上の見通しについて



今後の売上の見通しについては、「前年並み」が一番大きく、続いて「前年より落ち込む」更に「前年より良くなる」という項目が続いている。

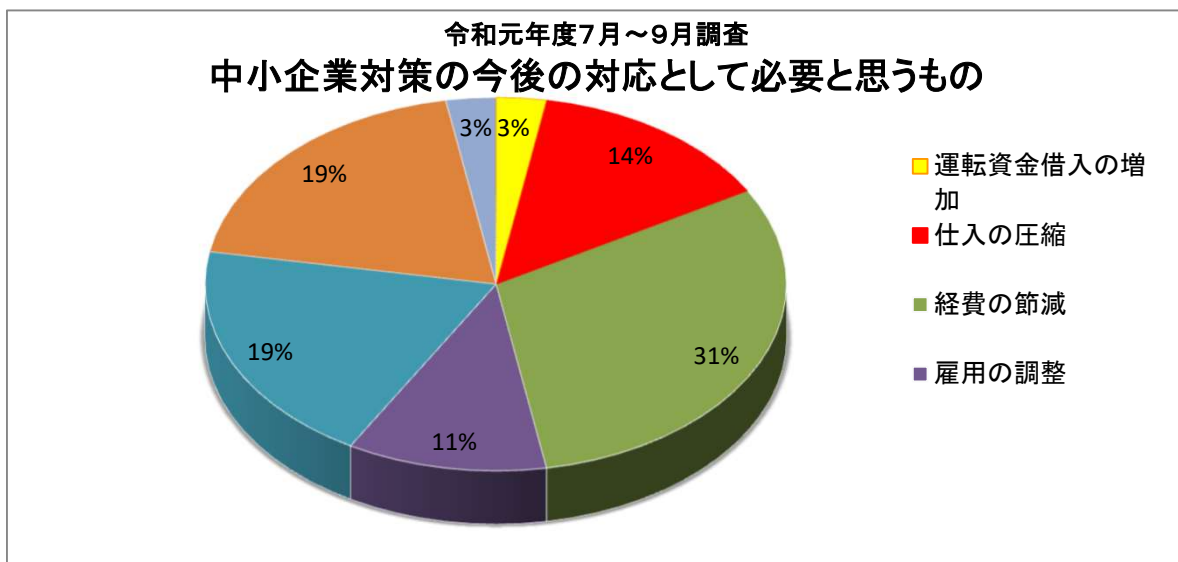
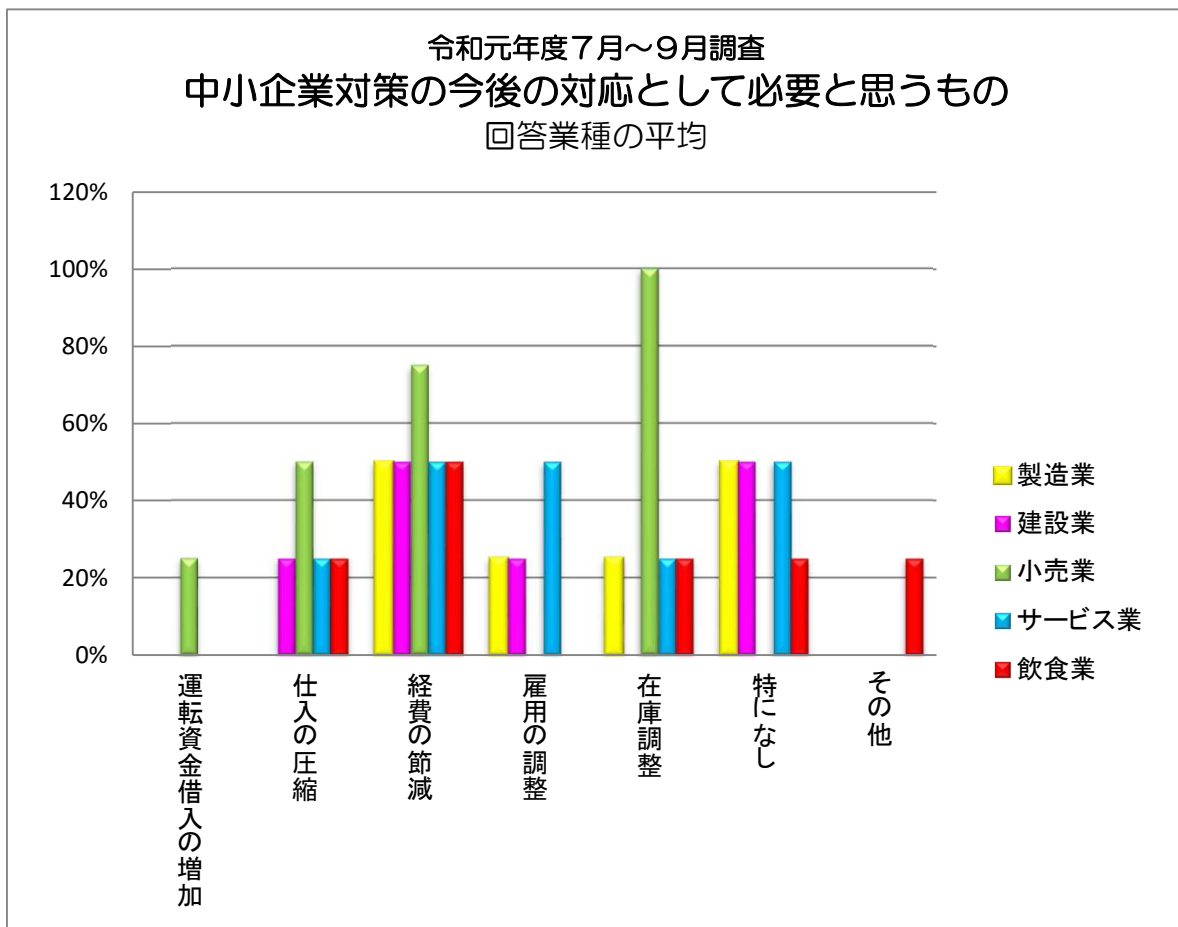
中でも、製造業・小売業・飲食業では、「前年より落ち込む」と回答する者が多く、建設業では、「前年より良くなる」と回答する者が多くなっている。

質問V 経営上の問題点として重要な点を下記により上位5つまで選んで重要な順に記入願います。



す。
経営上の問題点は、全体としては、需要の停滞が26%、ニーズの変化・仕入価格の上昇が13%となっており、需要の停滞は、業種別に見ると建設業以外でそれぞれ1位となっている。経費の増加は、建設業で1位となっており、昨今の建設費の高騰を裏付けするデータとなっている。その他特筆すべき点としては、小売業では2位で仕入価格の上昇となっており、消費者の需要の停滞やニーズの変化という大きな問題に対応していくために、日々の経費の増加や仕入価格の上昇への対応という姿が顕かになってきており、いかに解決していくかが喫緊の課題となっていることが明らかになってきている。

質問VI 景気低迷による中小企業の対策として、今後どのような対応を講ずる必要があると思いますか(複数回答)



中小企業対策の今後の対応として、必要と思うものについては、全体としては、「経費の節減」が1位となっており、この項目は製造業、建設業、サービス業、飲食業でトップとなっている。また製造業、建設業、サービス業では、「特に必要と思うものはなし」という回答もそれぞれの業種ごとのトップ(同数1位)となっている。しかしながら、「経費の節減」は自社以外の需要の停滞という影響がでることや、「特に必要と思うものはなし」は事業へのあきらめともなりかねず、昨今の事業承継の問題などとリンクして、解決するのは難しい問題となっている。